

SPWLA Japan Chapter NewsLetter

JFES Newsletter
e-mail: JFES-Newsletter@slb.com
Tel: 042-759-2111 / Fax: 042-759-4271

Japan Formation Evaluation Society

No.97 Jun 2018

Invitation to the 104th Chapter Meeting

We are pleased to announce that the forthcoming Chapter Meeting will be held as follows. Those who are interested in attending this meeting are asked to send an e-mail registration at JFES-Newsletter@slb.com no later than **Jul 16, 2018**.

Date & Time: Friday, July 20, 2018, 15:30 – 17:30

Venue: OYO Corporation (応用地質株式会社)
埼玉県さいたま市北区宮原町1-66-2
TEL 048(663)8611

Program:

Presentation 1:

<タイトル>

岩盤応力測定を目的とした新しい水圧破碎測定法の紹介

Outline of a new hydraulic fracturing technique for rock stress measurement

<講演者>

横山幸也 (応用地質株式会社 エネルギー事業部)

<要旨>

現在わが国で適用されつつある水圧破碎法は、従来からの測定方法に比べその測定理論と測定システムにおいて大きな差異がある。新しい水圧破碎法では、き裂の先端が閉じ始めるときのき裂閉口圧 P_s と、き裂が孔井壁面で再び開き始めるときのき裂再開口圧 P_r の二つの計測値が初期地圧の大きさを決める重要な観測パラメータとなる。新しい試験法では、これらのパラメータから主応力を求める観測方程式が修正され、試験装置の低コンプライアンス化が必要とされる。ここでは、岩盤応力測定法の全般を概観した上で新しい水圧破碎法とその測定例を紹介する。

Presentation 2:

<タイトル>

地中レーダ探査へのAI (機械学習) 利用例

An Application Example of Machine Learning to Shallow Subsurface Exploration using Ground Penetrating Radar

<講演者>

山下善弘 (応用地質株式会社 技術本部)

<要旨>

舗装道路における安全安心を確保するための維持管理の一環として、道路陥没を未然に防ぐための路面下空洞調査が計画的に行われている。このような調査では、一般的に車載型の地中レーダ測定器により一日あたり数十キロ以上といった広範囲を効率的に測定する。このように短時間で大量に取得されるデータの中から、陥没の危険性が高い空洞箇所などはいちはやく検知することが望まれる。一方で地中レーダデータから空洞反応箇所を迅速かつ確度高く抽出することは技術者の熟練度に依るところが少なくない。本講演では、地中レーダデータからの空洞箇所の自動抽出を目的として機械学習によるアプローチを試みた事例について述べる

Icebreaker (懇親会)

大宮駅周辺での開催を予定しております。懇親会費用は参加者ご負担になります。詳細は当日ご連絡します。

<< Access Information >>

埼玉県さいたま市北区宮原町1-66-2

■アクセスマップ

◇JR大宮駅より埼玉新都市交通「ニューシャトル」にて
2つ目の「加茂宮」下車
徒歩 3分

